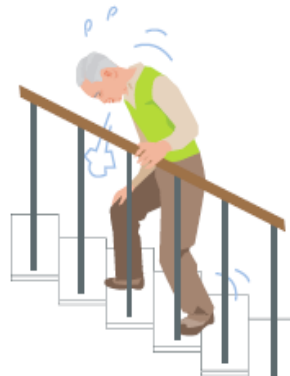


肺健康ドック



新型コロナウイルス感染症が重症化しやすい基礎疾患の一つに COPD があります。



慢性閉塞性肺疾患（COPD）は推定有病者 500 万人を超える肺疾患で、タバコ煙を主とする有害物質を長期に吸入することで生じ、喫煙者の約 20%に発症することがわかっています。この病気は気管支に障害が起き、吸い込んだ息が排出されず、空気が溜まることで、気道の先にある肺胞が破壊されていきます。この病態は戻ることはありません。

COPD は特徴的な症状である“労作時の息切れ”を発生します。

進行すれば、呼吸で酸素を取り入れ、二酸化炭素を排出する（換気）ことも困難となります。当初は全く無症状であり、進行は年単位で緩徐です。早期の発見がなければ、相当程度進行した状態で初診となる事が多く、重症であっても未診断の場合さえ珍しくありません。

肺健康ドックにより COPD を早期に発見し、また適切な治療（禁煙指導や内科的治療）をおこなうことで COPD の進行を遅らせ生命予後の改善につなげます。

COPD になると

細い気管支の先が狭くなり、その先の肺（肺胞）が破壊されていきます

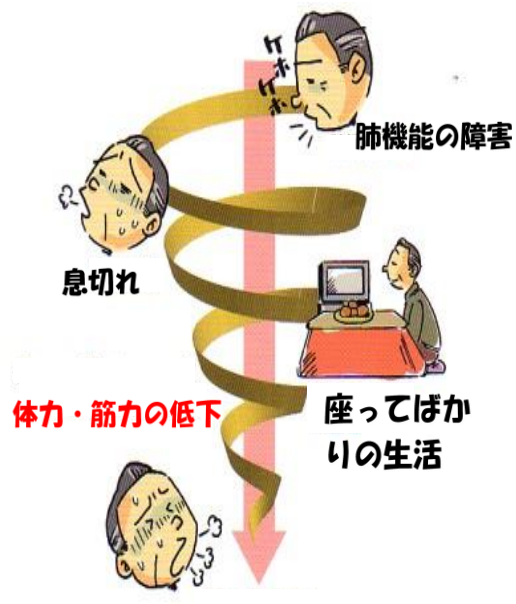
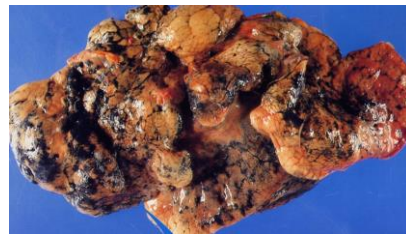
肺の動きが制限されます

息切れのため、四肢、呼吸する筋肉が弱くなります

血液中の酸素濃度が低下したり、換気が悪くなり二酸化炭素濃度が上昇します

日常行動（特に歩行）に制限がきます。入浴、食事、移動に制限がきます

酸素療法や呼吸補助の器機が必要となります



(検査項目)

①酸素飽和度 (SpO₂) 測定

パルスオキシメータを指先に装着し、侵襲を伴わずに脈拍数と経皮的動脈血酸素飽和度を測定します。当院では、安静時と歩行時の酸素飽和度を測定し、酸素消費量から肺の健康状態を診断します。

②肺機能検査 (肺活量・%肺活量・1秒率・%1秒量)

COPD の診断には重要な検査で肺活量と気道の空気の通りやすさを調べます。

③胸部 X 線検査 (正面)

画像診断は確定診断には困難です。

COPD が進行すると、肺が黒く写ったり、肺の容量が大きくなる(気腫化)などの特徴がみられます。

④医師による診察 (当日の結果説明含む)

医師が総合的に判断し、肺の健康状態を診断します。精密検査、治療の必要性に応じて、かかりつけ医、その他地元医療機関、当院呼吸器内科を紹介いたします。

また、禁煙外来も実施しておりますので併せてご紹介いたします。

●申込み方法 (完全予約制)

- ・海南病院 健康管理センターへお電話にてご予約ください。

T E L : 0567-55-7629 (健康管理センター直通)

●検診料金

- ・ 5,500 円 (税込)